

営農支援課、岩槻（南部エリア）担当の小松です。

岩槻の柏崎地区で生産者の方にご協力をいただきながら試験している、水稻の省力型肥料『苗箱まかせN400（40-0-0）』についてご紹介いたします。

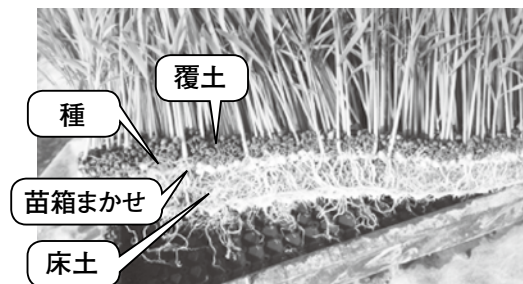
この『苗箱まかせ』は、本田での施肥作業を省力化するために開発された一発肥料です。播種作業のときに、育苗箱の中に肥料も一緒に入れてしまうという施用方法で、床土→苗箱まかせ→種→覆土の順に入れていきます。苗箱まかせを入れる分、床土の量は減らします。施肥してから30日間は極力、肥料成分が溶け出さないように作られています。

育苗期間中の温度管理や、こまめな灌水が必要（床土が少ない分、乾燥しやすいため）などの注意点はありますが、うまく使えば本田での作業を省力化することができます。

今回は、5月20日田植えの彩のかがやきで試験させていただいており、播種・施肥日は5月1日、1箱あたり800gを施肥しました。窒素量で、1反あたり6kgほど入る計算です。

現在のところ生育は順調で、慣行区と比べても大きな差はありません。

収穫したお米の品質や収量に問題が無ければ、省力型肥料として普及できると考えています。



5月20日田植え前後の様子



8月17日現在の生育状況